

明治時代、日本の絵画は急激な社会の変化の中で転換期をむかえます。西洋の表現も取り入れられ、新しい「日本画」を求めた模索が始まりました。この時代に活躍した本県出身の日本画家として、伝統的な狩野派の流れを汲む山水画で力を発揮した山内多門がまず挙げられます。また、同時代に秀麗な美人画で認められていたのが益田玉城です。

一方、本県出身の洋画家では、太い輪郭線と鮮やかな色彩で独自の画風を追究した塩月桃甫が、大正5年に文展（文部省美術展覧会）に入選しています。また、力強い筆づかいで生命力あふれる女性像を描いた山田新一などが中央画壇で活躍しました。

今回は、宮崎県を代表する作家の作品を紹介するとともに、今年生誕120年を迎える山田新一の特集展示も行います。

本県出身の作家やゆかりの作家による作品の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	塩月 桃甫	1886~1954	福	不明	46.1×48.9	水彩
2	塩月 桃甫	1886~1954	雀	1951(昭和26)	46.8×48.6	水彩
3	塩月 桃甫	1886~1954	少女像	1953(昭和28)	41.0×32.1	油彩
4	塩月 桃甫	1886~1954	黒猫と少女	1950(昭和25)頃	73.0×60.6	油彩
5	彌勒 祐徳	1919~	作品 4	1962(昭和37)	75.5×108.0	油彩
6	太佐 豊春	1921~2005	処刑の森	1968(昭和43)	109.2×79.0	水墨, インク
7	太佐 豊春	1921~2005	地霊 其の二	1973(昭和48)	79.7×109.0	水墨, 水彩
8	河野 扶	1913~2002	ある風景	1996(平成8)	60.5×50.1	油彩
9	山内 多門	1878~1932	菅公詠詩之図	1902(明治35)	129.9×55.2	日本画
10	山内 多門	1878~1932	長閑	1915(大正4)	127.6×42.2	日本画
11	山内 多門	1878~1932	春秋山水双幅	1923(大正12)	左軸130.7×41.9 右軸130.0×42.1	日本画
12	益田 玉城	1881~1955	美人立姿	不明	125.3×41.8	日本画
13	益田 玉城	1881~1955	美人図	不明	右扇133.2×50.3 左扇133.1×50.3	日本画
14	山田 新一	1899~1991	シュザンヌ	1928(昭和3)	53.0×45.5	油彩
15	山田 新一	1899~1991	菊の花	1928(昭和3)	60.8×50.0	油彩
16	山田 新一	1899~1991	ポン・ロワイヤル	1929(昭和4)	50.2×61.0	油彩
17	山田 新一	1899~1991	椅子に凭るY嬢	1929(昭和4)	54.6×45.5	油彩
18	山田 新一	1899~1991	フランソワーズ	1954(昭和29)	72.6×60.8	油彩
19	山田 新一	1899~1991	マルセーユ	1965(昭和40)	130.2×97.0	油彩
20	山田 新一	1899~1991	雪のグルンデルワルド	1972(昭和47)	60.8×72.7	油彩
21	山田 新一	1899~1991	冬着のアーニャ	1984(昭和59)	116.7×80.5	油彩